

# 浜田山ローソンテニス倶楽部100周年

元三井住友海上  
副社長

三井グループのテニスクラブ・浜田山ローンテニス俱楽部が今年、創立100周年を迎えた。大正時代からデビスカップ(デ杯)選手も數多く輩出しており、日本テニスの黎明期を支えるほどの大きな足跡を残している。1世紀に及ぶ三井グループのテニス史とスポーツを取り巻く現代の環境について、浜田山ローンテニス俱楽部・栗岡威会長に話を聞いた。

明治期からテニス

期までさかのぼる。三井家や旧三井物産にはテニスの愛好家が多く、有楽町三井集会所（現東京ミッドタウン日比谷）や旧三井本館（現三井本館）、三井家戸越別邸（現戸越公園）にもテニスコートが置かれた。



栗岡 威氏 略歴 1945年生  
まれ。兵庫県出身。79歳。1968  
年慶應義塾大学商学部卒業、同年大  
正海上火災保険（現三井住友海上火  
災保険）入社。1995年取締役、  
2002年専務取締役、2004年  
副社長、2005年三井住友海上メ  
ットライフ生命保険（現三井住友海  
上プライマリー生命保険）社長、2  
015年日本ベンチャーキャピタル  
取締役、2016年同社取締役副会  
長に就任し、現在に至る。一般社団  
法人東京都テニス協会会長（現職）。

## デビスカップ三井系代表選手

氏名	出場回数	会社名
清水 善造	6回	旧三井物産
柏尾 誠一郎	2回	旧三井物産
向本 忠	1回	旧三井物産
鶴羽 貞三	3回	旧三井物産
川地 実	1回	三井鉱山
宮城 淳	10回	ゼネラル物産
山茂 公成	7回	三井物産
美田 善久	3回	ゼネラル物産
鈴浦 督	3回	三井物産

# 浜田山グラウンド

「三井上高井戸運動場」（浜田山グラウンド）は1936年に開設された。三井家は東京・戸越の戸越別邸（現戸越公園）に広大な土地を持ち、三井農園（現第一園芸）や三井文庫、テニスコートなどの施設があつたが、関東大震災後の都市計画によって土地の運動場には野球場3面、テニスコート12面、並の高井戸に代替地を求めた。オープン当時の敷地面積は約3万坪。このうち、約2万坪を運動場、約4000坪を緑林とし、残りの土地は戦後に杉並区立高井戸中学校用地として譲渡された。

童遊園 鈎堀池 クラ  
ハウスなど最新の施  
設が揃つた。クラブハ  
ウス設計者は三井家と  
親父の深かつた久米設  
計の創立者・久米権九  
郎。戦後は三井不動産  
の管理の下で三井グル  
ープの運動場として復  
活。全三井大会や社内  
運動会が盛んに行わ  
れ、1961年には25  
バブルが新設され、  
隣には児童用の円形ア  
ーチも並んだ。  
しかし、バブル崩壊  
以降は利用率が低迷。

A black and white group photograph of a large group of people, mostly men in suits, standing in several rows in front of a modern, multi-story white building with a flat roof. The building is surrounded by trees and some utility poles. The group is posed in a formal, organized manner, typical of a professional or academic gathering from the mid-20th century.

戸越テニスコート利用  
ら2人目が三井高公氏  
が松平康昌氏、後列左か  
平康邦氏(松平家提供)、  
テニス俱楽部の優勝盾  
(ゼネラル物産、現工  
オス)、加茂公成さ  
(三井物産)、半那毅  
さん(三菱電機)、藤井  
道雄さん(同)など憧れ  
テニスプレイヤーたち  
全三井・全三菱大会の第  
1試合は元テニス選手の  
人で戦うこともあった。  
皆さん、私より一回り以  
上も年上だったが、負は  
た記憶しかない(笑)。

後進に残したい交流

昭和末期から平成初期  
にかけて全三井テニス大  
会は最盛期を迎える。参加  
組数は300組を超えて  
ほど。各クラスの予選と  
決勝まで数カ月かかる  
こともあったが、バブル  
崩壊とともに参加者は徐々に減少。2005年には浜田山グラウンドも閉鎖された。現在は東宝調布スポーツパークを本拠地とした。事業編や統合は時代の流れを

はり前のコートがないのは不便。会場確保も思うに任せず、コート数も限られるので大会規模は縮小せざるを得ない。

私の役目は先人が大切にしてきた浜田山ローランテニス俱楽部の火を消さないこと。三井住友海上やエームサービス、三井不動産など実業団のテニスチームもあるが、アマチュア競技も大切にしたい。私は若い頃に法人営業を担当していたのでテニスは仕事をする上でも大きい役立つた。三井や三菱の大会に出場すれば慶應や早稲田の仲間たちとも旧交を温めることができた。後進にもう少しあげたいし、残さないといけない。人的資本経営が叫ばれるなかで、企業同士のスポーツはエンゲージメントも大いに高める。次の100年も浜田山ローランテニス俱楽部が続くよう、テニスの復権を期して、三井グループ各社には協力をお願いします。(付録一備考)

This aerial photograph shows the Hamada-yama Tennis Grounds in the 1930s. The grounds feature several tennis courts arranged in a grid pattern, surrounded by trees and other sports fields. In the background, there are residential buildings and industrial structures.

童遊園、釣堀池、クラブハウスなど最新の施設が揃った。クラブハウス設計者は三井家と親交の深かった久米設計の創立者・久米権九郎。戦後は三井不動産の管理の下で三井グループの運動場として復活。全三井大会や社内運動会が盛んに行われ、1961年には<sup>25</sup>バーナード・ブルーが新設され、隣には児童用の円形アーチも並んだ。

しかし、バブル崩壊以降は利用率が低迷。会員会社も減少したため、2005年に閉鎖された。跡地は三井不動産の「パークシティ浜田山」に姿を変えたが、歴史的建築物であるクラブハウスはコミニティ施設として再建され、当時の面影を残す。自然林は杉並区に譲渡され、「杉並区立三井の森公園」として開園。杉並区最大の樹林保全型公園として残された。